

令和7年度 教員向けMMについて

1. 開催に至った経緯・目的

【令和6年度】

令和6年度より、阪急バスが小学校などの教育現場で使える『副教材』を監修・作成し、
阪急バスが運行している各自治体の小学生
(4・5・6年生)へ配布した。

(課題)

配布するだけになってしまっているので、
副教材を使って授業を実施してもらえるように工夫をする。



【令和7年度】

(改善策)

副教材を市内小学校の対象学年(1・2・3年生)の全児童へ配布。配布後、実際に授業を実施してもらえるように、以下のような目的で教員向けMMを実施した。

(※市内の基幹交通である能勢電鉄にも協力依頼)

(目的)

① 阪急バス副教材について教員目線で意見交換を行う。

(※ワークショップを開催)

(トークテーマ) どんな授業でつかえそうか? 副教材の中身の改善点など

② 阪急バス副教材と能勢電鉄資料を活用し、実際に授業を実施

阪急バス・能勢電鉄の無料乗車券をプレゼント。(※授業の実施が条件)

実際に公共交通を利用してもらい、公共交通を身近に感じてもらう。



2. 実施概要 (結果)

【日時】 令和7年8月1日(金) 14:00~16:00

【会場】 川西市役所 7階大会議室

【参加者】 教員20名(申込23名) (市内17校のうち9校)

久代小: 1名、川西小: 3名、多田小: 1名、多田東小: 6名
緑台小: 1名、清和台小: 1名、牧の台小: 2名、東谷小: 4名
川西養護学校: 1名

近隣自治体5名 猪名川町: 2名 池田市: 1名
宝塚市: 1名 豊中市: 1名

※ワークショップには、阪急バス3名・川西市2名も参加

3. 当日のスケジュール

- 1 開会 本研修の目的と松村先生の紹介
- 2 【講義1】モビリティ・マネジメント教育を学校で実践することの意味
【講義2】能勢電鉄について
【講義3】阪急バスについて

※講義1~3で、なぜモビリティマネジメントが必要なのかを認識してもらってから、ワークショップを行い有意義な意見交換をしてもらう。

3 ワークショップ(参加者: 教員・自治体職員・阪急バス)

4 閉会 無料乗車券配布までの流れの説明

講義・ワークショップの振り返り

【講義1】モビリティ・マネジメント教育を学校で実践することの意義

講師：愛媛大学 社会共創学部
学部長 松村 暢彦氏

【講義内容】

モビリティ・マネジメントについて、時代の移り変わりの中でどう学校教育へ関わってきたのか。また、モビリティ・マネジメントと教育の関係性やMM教育がもたらす効果などについて、幅広くご講義いただいた。



モビリティ・マネジメント教育を 学校で実践することの意義

愛媛大学社会共創学部
松村 暢彦

モビリティ・マネジメント教育との関 連付けが考えられる授業

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
社会			◎	○	◎	◎
理科			△	○	△	◎
生活	◎	◎				
家庭					○	○
道徳	○	○	○	○	○	○
総合的な学習の時間			◎	◎	◎	◎
特別活動	○	○	○	○	○	○

https://mm.education.jp/assets/program/mm-edu_tebiki.pdf

教員アンケート結果（一部抜粋）

- 公共交通機関、確かに自分も最近使っていないと実感しました。子どもたちに身近な乗り物として、公共交通の必要性を学べればと思います。
- MMの講義は初めて受講しましたが、少子高齢化する中で、どう維持するのか、コンパクトシティにするのか、パークアンドライドにするのか、別の選択か、考えさせるためにも教育は大切だと思いました。
- MM教育ポータルサイトがあることを知らなかったなので、今後の授業等に活用したいと感じました。
- 聞きやすく、話の内容からも思いが伝わってきた。丁寧な進め方でとてもよかった。

【講義2】 能勢電鉄について

講師：能勢電鉄 鉄道事業部
企画統括担当 林課長

【講義内容】

実際に授業で活用してもらおう、『能勢電鉄資料』の内容について、児童のみなさまに理解してほしい点など要点を絞ってご講義いただいた。

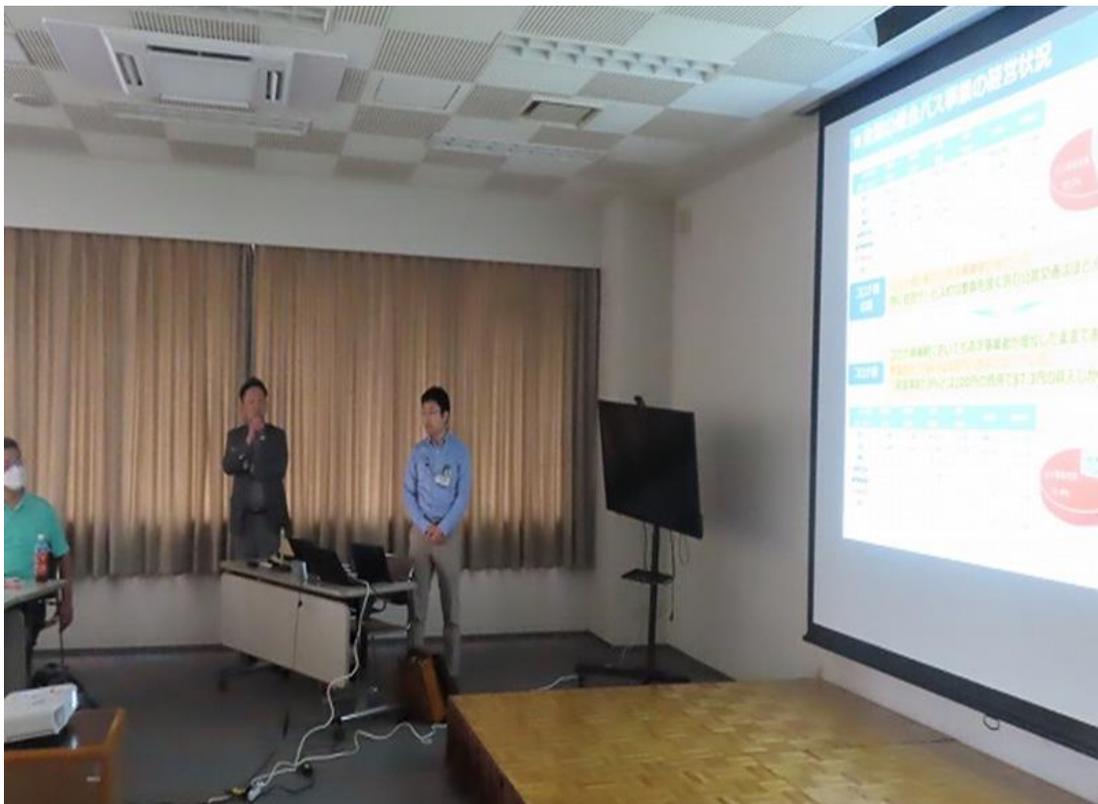


教員アンケート結果（一部抜粋）

- ・能勢電鉄の実態や課題、電車のよさ（SDGs）など新しい仕組みや取組が知れてよかったです。
- ・授業で使えるような内容のスライドで分かりやすかった。
- ・昨年、企業のSDGsの取り組みの調べ学習をした。ゲストティーチャーとして招き、話を聞く機会があればと思った。
- ・豊富な資料と児童に伝えてほしい要点がはっきりしていてよかった。
- ・すばらしいパワーポイントだった。昔の駅の様子など子供達が驚く様子が想像出来ます。
- ・能勢電鉄で子ども向けの授業をしていることを初めて知りました。
- ・スライドのQRコード等があれば、教室の電子黒板に映し出せるのでありがたいです。
- ・電車のマナーがよく分かる動画があると良いかなと思います。

【講義3】 阪急バスについて

講師：阪急バス 営業企画部 計画課
田中課長 上畑係長



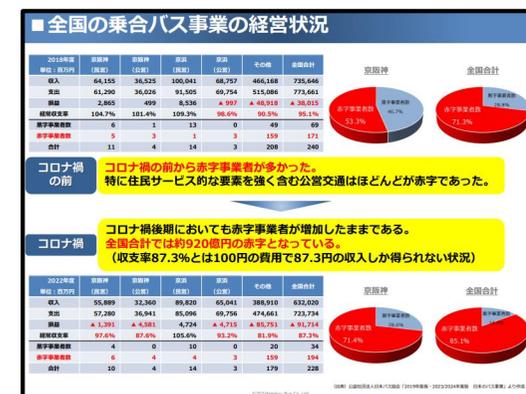
【講義内容】

阪急バスやバス業界が抱える課題や現状について数値やグラフを用いながら説明し、モビリティ・マネジメントの必要性や阪急バスが実施しているモビリティ・マネジメントについて、ご講義いただいた。

事業環境について

阪急バス株式会社
自動車事業本部 営業企画部 計画課

2024年12月



教員アンケート結果（一部抜粋）

- ・現状を知り、今後利用者となる子どもたちにどのように伝えていけばよいのか考えるきっかけとなりました。
- ・資料がすごく詳しく時間があるときにゆっくり読みたいです。
- ・阪急バスユーザーなので、存続の危機にドキマギしました。
- ・阪急バスの現状を全く知らず、今回初めて知ることが多かったです。お忙しいとは思いますが、ぜひバスが学校にきてもらえると嬉しいです。
- ・貸し切りバスの代わりに、事前連絡したら増便して対応してもらえたりすると、より利用しやすいかと思いました。
- ・学習でもつかえる児童用スライドもあると2学期以降の学習でも使えるなと感じました。

ワークショップについて

講師：松村先生

【ワークショップの内容】

阪急バス副教材について、教員・自治体職員・阪急バス社員で5人×6グループ作り、テーマに沿った意見交換を実施。

テーマは以下のとおり

テーマ1：どんな授業で副教材がつかえそうか。

テーマ2：よりよい副教材にむけた教員目線の指摘

↓グループ分けは以下のとおり↓



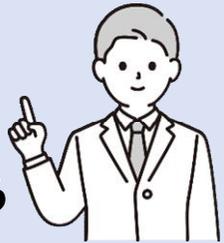
ワークショップの様子



【STEP1】

松村先生から

ワークショップの説明



【STEP2】ワークショップ(意見交換)



【STEP3】ワークショップで出た意見の発表



テーマ1：どんな授業で副教材がつかえそうか。

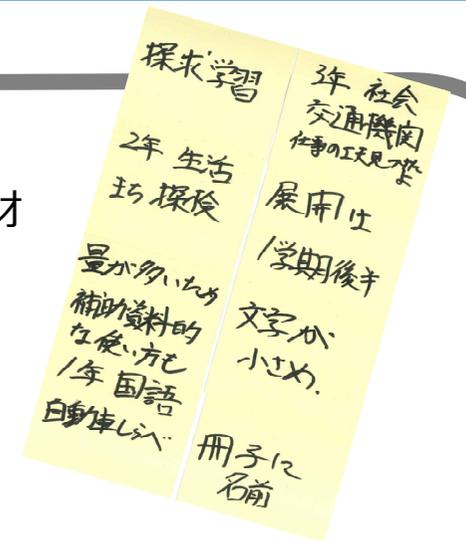
ワークショップで出た意見（一部抜粋）

- ・ 地元を知る授業の際に、移動手段を知るという意味で「阪急バス」を知る教材
- ・ 遠足の前の指導
- ・ 以前バスを追いかける授業を行った（バス停を見つける校区めぐり）
- ・ まち探検、マナー授業、校外学習の前に組み込む
- ・ 職業体験や仕事について調べる学習があるので、そこで授業できそう
- ・ 「昔の人の暮らしを学ぶ」という授業があり、そこでバスの進化を関係付けて授業できないか

～具体的な授業～

- ・ 1年生 国語 「じどう車しらべ」
- ・ 2年生 生活 「まち探検」
- ・ 3年生 社会 「交通機関」「わたしたちの川西」
- ・ 3年生 道徳 「社会のルール」
- ・ 4年生 「バリアフリー関係」の授業
- ・ 3・4・5・6年生総合 「SDGs」の授業

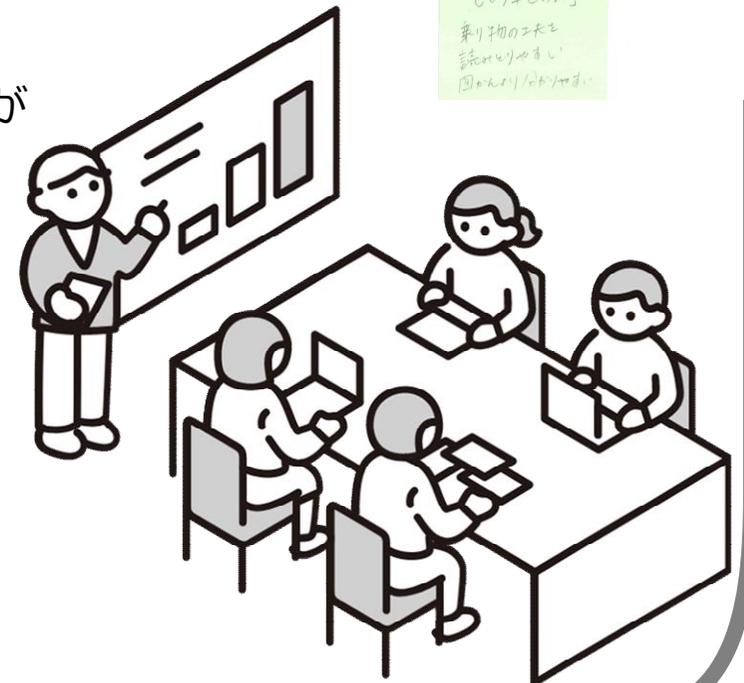
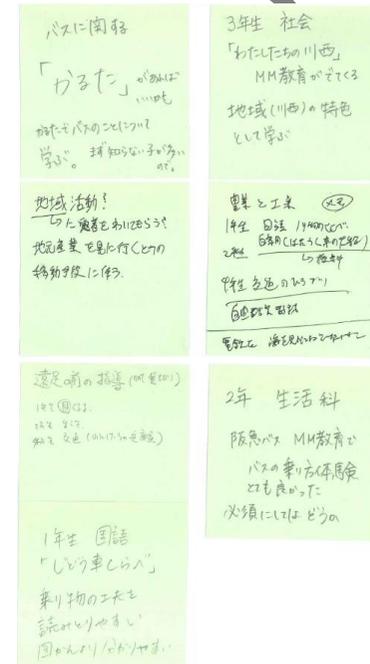
※授業に組み込むと教員の負担増になるため、自由研究で活用するのもあり。



テーマ2：よりよい副教材にむけた教員目線の指摘

ワークショップで出た意見（一部抜粋）

- 文字が多く、小さい。
- クイズとかあった方がいい。生徒が飽きてしまう。
- クイズの素材やクイズを何パターンかHP等でダウンロードできるようにする。
- ゲーム的なものがあればいい（スゴロク？運賃を忘れたら1回休みとか）
- P2.3 ヒミツを提示してほしい（ヒミツを探して説明するだけで1時間終わってしまう）
- 何編と区切るのはいかがでしょうか。（「おでかけ編」「バス車両編」「乗り方マスター編」とか）
⇒区切りでワークシートがあるとありがたい。
- 文字だけだと児童は食いつかない。
⇒QRコードを読み込むと、動画（ショート動画が良い）や3Dバスが見れるなどしたら、児童の頭に残りやすい。
- 情報量が多い（教員用でこの冊子を使う方がいい）
- 文章・単語の意味が理解できないのでは？
- 1学期終わり頃の展開がタイミングとしてはいい。
- 冊子に名前を書くところがあれば大切にしてくれる。
- 授業するならパワポデータや画像データがほしい。
- 子どもたちにとって視覚的に分かりやすい副教材。



教員アンケート結果・感想（一部抜粋）

- ・このような研修がなければMM教育を意識することはなかったので、良かったと思います。
- ・副教材について、意見を出し合うのはとてもよかったです。又、続けてほしいと思いました。
- ・副教材の完成度の高さに驚きました。阪急バスの担当の方が素朴な疑問にも丁寧に答えてくださり楽しく学ぶ事ができました。来年度低学年担任の先生にすすめたいと思いました。
- ・教員とバス会社の方と直接お話できる機会はとても大切だと思います。
- ・資料がしっかりしていたので、意見が出しやすかったです。
- ・冊子を作られた方とお話ができ、意図をよく理解することができました。
- ・さまざまな学年で使用できそうなすてきな教材でした。

Q 来年度もこのような研修があれば参加したいと思いますか。

思う：14名 どちらともいえない：2名 無回答：3名

アンケート結果からの考察

- ・モビリティ・マネジメントの概念を知らない教員もいたため、まずは教員の方にMM教育の重要性や事業者の現状について知ってもらう必要がある。
- ・能勢電鉄や阪急バスのMM授業の取組について、今後継続して周知する必要がある。
- ・ワークショップでは、教員や事業者、自治体職員が同じグループで話し合うことで、各視点から副教材について考えることができ、よりよい副教材の作成に向けて効果的な意見を集めることに繋がった。

施策の目的 ⇒ 川西市内を運行する公共交通（電車・バス）の利用者の増加

無料乗車券を配布することで、公共交通の利用頻度が少ない又は利用したことがない方に公共交通の利用機会を提供し、『公共交通は便利で使いやすい』と体感してもらい、今後の移動手段の一つとして公共交通を選択・利用してもらう。

《実施概要》

日時：4月6日（日）9時45分～14時30分

場所：キセラ川西せせらぎ公園（本部横）

配布枚数 ※各400枚ずつ準備

- ・阪急バス（197枚）
- ・能勢電鉄（256枚）

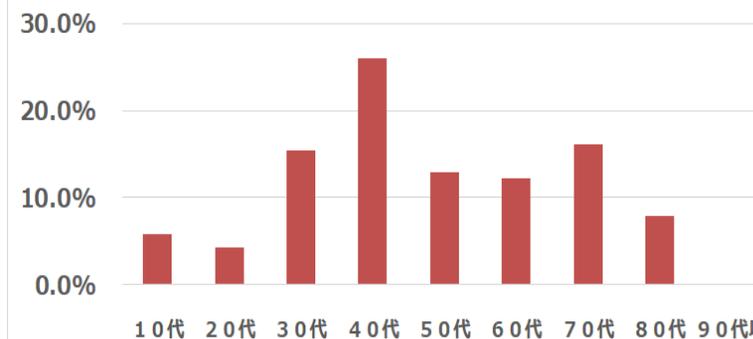
アンケート回答者数（281名）

Q1.回答者の住所

川西市内	川西市外	電車	バス
80.8%	19.2%	59.3%	40.7%

Q2.イベント来場手段

年齢分布



Q3.年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上
5.7%	4.3%	15.3%	26.0%	12.8%	12.1%	16.0%	7.8%	0.0%

Q4-1.電車の利用頻度 (Q2のイベントへの来場手段が**電車の方のみ**回答)

1週間に1回以上	1ヶ月に1～2回程度	2～3ヶ月に1回程度	半年に1回程度	乗らない
60.8%	28.2%	7.7%	2.8%	0.6%

電車の利用頻度が少ない理由 (1週間に1回以上を選択した人以外)

- ・車で移動することが多い
- ・自宅周辺で用事が全てすむ
- ・通勤で使わない
- ・遠出することがない
- ・駅が遠い
- ・電車賃が高い
- ・出かける頻度が少ない

Q4-2.バスの利用頻度 (Q2のイベントへの来場手段が**バスの方のみ**回答)

1週間に1回以上	1ヶ月に1～2回程度	2～3ヶ月に1回程度	半年に1回程度	乗らない
53.2%	25.0%	10.5%	8.1%	3.2%

バスの利用頻度が少ない理由 (1週間に1回以上を選択した人以外)

- ・車で移動することが多い
- ・自宅周辺で用事が全てすむ
- ・出かける頻度が少ない
- ・通勤で使わない
- ・運賃が高い
- ・ベビーカーがあるので、利用を躊躇う
- ・子どもを連れて乗るのが大変
- ・時間が前後する

Q5.イベントに来場した理由 ※複数回答可

無料乗車券の配布があるから	知人にさそわれたから	通りがかり気になったから	イベントが楽しそうだったから
20.2%	12.4%	5.5%	61.8%

Q6.無料乗車券を配布することを何で知りましたか。 ※複数回答可

広報紙	HP	SNS	チラシ・ポスター	当日イベントに来て知った。
31.8%	9.1%	7.1%	20.5%	31.5%

Q7-1.電車の利便性

とても便利	便利	少し不便	不便
58.6%	37.6%	3.9%	0.0%

Q7-2.今後も電車を利用しようと思いますか。

とても思う	思う	あまり思わない	思わない
70.2%	29.3%	0.6%	0.0%

※電車を今後も利用しようと思わない・思わない理由
・車の方が便利のため

Q8-1.バスの利便性

とても便利	便利	少し不便	不便
47.6%	38.7%	12.9%	0.8%

Q8-2.今後もバスを利用しようと思いますか。

とても思う	思う	あまり思わない	思わない
56.5%	38.7%	4.8%	0.0%

※バスを今後も利用しようと思わない・思わない理由
・車の方が便利 ・移動が遅い ・本数が少ない

Q9.公共交通に関する意見や改善してほしい点

阪急バス

【意見】

- ・いつも利用していて、とても便利です

【要望】

- ・池田から川西までのバスを復活してほしい
- ・定期券のメリットが少ない（料金が低い）
- ・深夜バスの見直し（24時からにしてほしいなど）
- ・電気バス、ノンステップバスを増やしてほしい
- ・能勢電鉄と合わせた時刻表にしてほしい
- ・時間通りに来てほしい
- ・運行本数を増やしてほしい

能勢電鉄

【意見】

- ・乗り心地がいい
- ・いつも快適でとても感謝しています
- ・いつも電車が綺麗です

【要望】

- ・便数を維持してほしい
- ・終電をもっと遅くしてほしい
- ・土日回数券を復活してほしい
- ・ベビーカースペースがあればうれしい

公共交通全体

【意見】

- ・便利で安い
- ・これからも頑張ってもらいたい

【要望】

- ・料金が低い
- ・高齢者割引制度をつくらしてほしい
- ・なくならないでほしい

無料乗車券の配布があるからイベントに来場した人の割合

Q4-1.電車の利用頻度 (Q2のイベントへの来場手段が電車の方のみ回答)

1週間に1回以上	1ヶ月に1~2回程度	2~3ヶ月に1回程度	半年に1回程度	乗らない
110	51	14	5	1
60.8%	28.2%	7.7%	2.8%	0.6%

※無料乗車券が配布されるという事前周知によりイベントへ来た人

17	14	3	0	0
15.5%	27.5%	21.4%	0.0%	0.0%

Q4-2.バスの利用頻度 (Q2のイベントへの来場手段がバスの方のみ回答)

1週間に1回以上	1ヶ月に1~2回程度	2~3ヶ月に1回程度	半年に1回程度	乗らない
66	31	13	10	4
53.2%	25.0%	10.5%	8.1%	3.2%

※無料乗車券が配布されるという事前周知によりイベントへ来た人

19	6	6	2	1
28.8%	19.4%	46.2%	20.0%	25.0%

【利用頻度別】 阪急バス無料乗車券の利用率

利用頻度が少ない人が
無料乗車券を利用してくれたか？

無料乗車券利用率 ※能勢電鉄は利用したかどうかは
確認できない

Q4-2.バスの利用頻度

(Q2のイベントへの来場手段が**バスの方のみ**回答)

配布枚数	利用枚数	利用率
194	150	77%

	1週間に1回以上	1ヶ月に1~2回程度	2~3ヶ月に1回程度	半年に1回程度	乗らない
回答者数	66	31	13	10	4
回答割合	53.2%	25.0%	10.5%	8.1%	3.2%

利用数	37	17	9	6	3
利用割合	56.1%	54.8%	69%	60%	75%

考察

- ・利用率はR6年度から大きく改善された。(R6年度55%⇒今回77%)
 - ・利用率は77%だったが、普段バスの利用頻度が少ない人(1週間に1回以上を選択した人以外)は35組
だけであり、『普段利用頻度が少ない人に対しバス乗車機会を提供する』という効果は限定的であった。
- ⇒利用頻度が少ない人へ事前周知の方法を工夫し、利用枚数の増加をめざしたい。

(チラシ・ポスターの改善など)

牧の台地域協働交通検討部会ワークショップ開催結果について

【開催日時】 令和7年9月5日 (金)

14:00~16:00

【会場】 大和第一自治会館

【参加人数】 40名

※参加者に『大和バスの利用頻度』のアンケートを実施

A: 1週間に1回以上 B: 1ヶ月に1回以上 C: 乗らない

大和西 (7名)

(A: 2名・B: 2名・C: 3名)

1丁目 2名

(B: 1名・C: 1名)

2丁目 0名

3丁目 1名

(C: 1名)

4丁目 0名

5丁目 4名

(A: 2名・B: 1名・C: 1名)

大和東 (33名)

(A: 10名・B: 16名・C: 6名)

1丁目 6名

(A: 3名・C: 3名)

2丁目 11名

(A: 3名・B: 6名・C: 2名)

3丁目 1名(※不明)

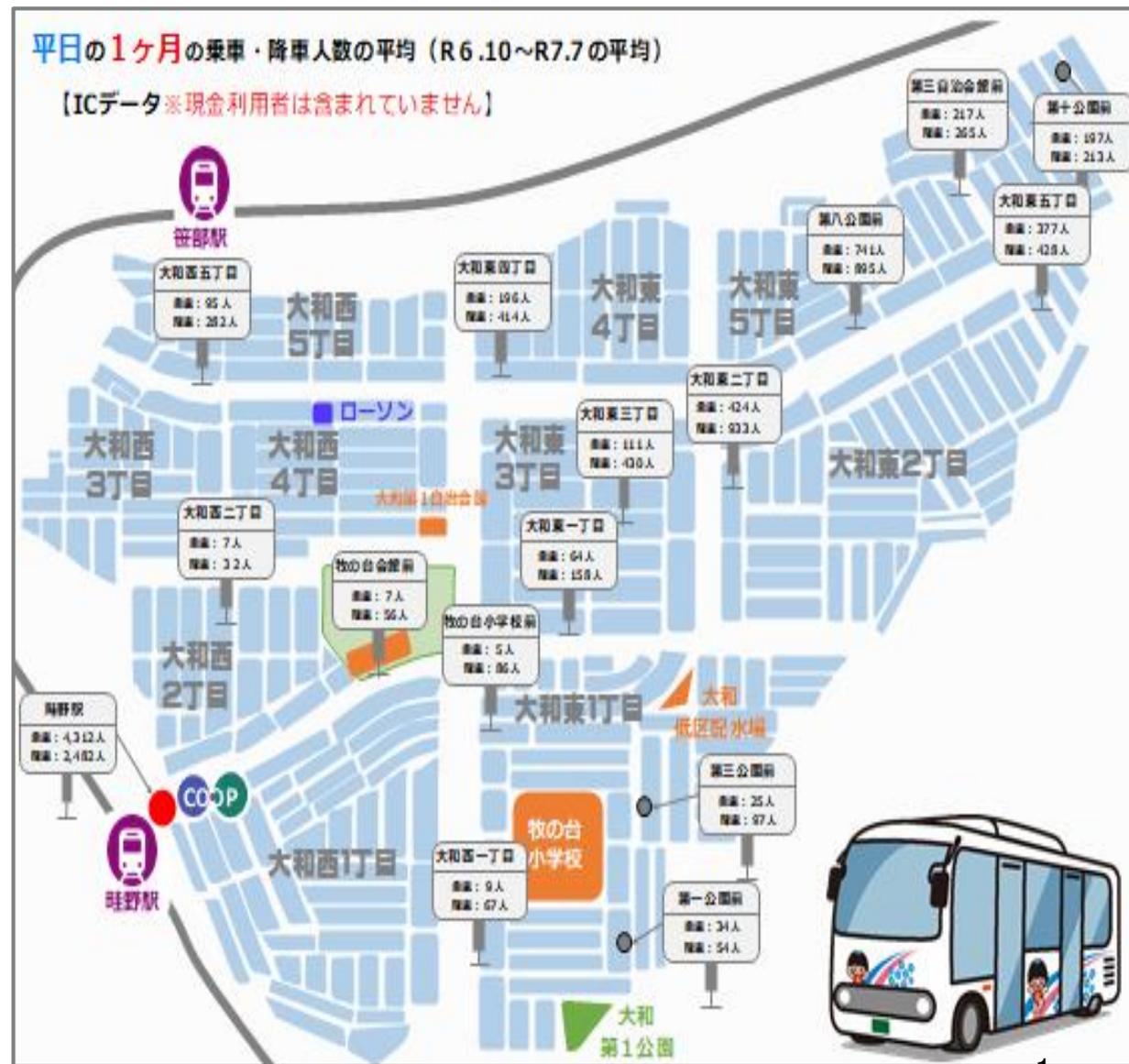
4丁目 2名

(B: 2名)

5丁目 13名

(A: 4名・B: 8名・C: 1名)

● (参考) 大和団地線の地図



ワークショップでの意見

～ワークショップの流れ～

4つの班へチーム分け (各班10名程度)

- ・参加者40名を各班へ振り分け

課題の抽出

(議題1)

大和バスによく乗る人、乗らない人の理由

- ・自己紹介(居住地、バスの利用頻度など)
- ・バスに乗る理由、乗らない理由を発表

解決策の検討

(議題2)

バスの利用頻度を増やすための取組

- ・議題1の結果を参考に、効果的な利用促進策を検討

(議題1) 大和バスによく乗る人・乗らない人の理由の意見まとめ

大和バスによく乗る人の理由

- ・飲み会の帰宅時
- ・バスに乗らないと駅方向にいけないから
(お店が駅周辺に集まっている)
- ・登り坂がきついから帰りに乗る
- ・電車での遠出・通院・お稽古時に利用
- ・車、免許なし
- ・バスは大和に必要と考えるため、無理しても週2回は乗るように心がけている

大和バスに乗らない人の理由

- ・1時間に1本しかないところもある
- ・土・日・祝日にバスがない時間帯がある
- ・最終便が早く通勤に使えない
- ・便数が少ない・運賃が高い・バス路線が少なく利用出来ない
- ・停留所間が長い・バス停までが遠い
- ・バスが小さくて、バス停に来た時には既にいっぱい乗っている
- ・駅と逆方向に行く目的がない(駅方向に行く人が多く、利用に偏りがある)
- ・10分以上待つ場合は歩く(歩く方が早い)
- ・クルマの方が便利(子どもを何人も連れている場合はクルマを利用する)
- ・車を運転するので時間に束縛されず自由
- ・駅が近いため歩く(ウォーキングをしたい)

(議題2) 利用頻度を増やすための取組(案)のまとめ

1. 子どもを対象にした利用促進

子どもをターゲットにすることで、付き添いの大人も巻き込む

- ・子どもの絵を車内に展示
- ・子どもを無料にする
- ・乗って楽しい子どもの車内放送
- ・学校行事で使う
- ・こども園の送迎
- ・東谷中学校（夏の部活）での利用

2. バス利用者への特典付与

- ・乗車時にスタンプ押ししてもらい、ためるとなにかもらえる
- ・利用したら「笑顔ミライちょきん」のポイントを付与
- ・バスの利用回数に応じて無料乗車券を自治会・コープ等が配る（10回乗ったら1回無料）
- ・コープ、銀行でバス利用者にスタンプ（景品又は割引・市の補助）
- ・1ヶ月何回以上乗ればコープの商品券がもらえるような制度
- ・自治会からの補助金

要望等

- ・便数を増やす
- ・土・日・祝日は1時間に1便にしてほしい
- ・土曜日は9時台が2便あるから、11時に1便走らせてほしい
- ・平日は11時と16時に増便してほしい（買い物のため）
- ・夜の便が20時30分最終なので、22時30分までにしてほしい（通勤に使えない）

3. イベント開催や施設設置

バス利用者の目的地を畦野駅だけではなく、各所につくる。

- ・東5丁目、第3自治会館、第10公園でバスの時刻に合わせた大きなイベントをする
- ・奥の方に買い物を出来る施設を！
- ・大和ハウス所有地に集客施設・コープ移転
- ・魅力あるまちづくり（自治会・福祉・社協活動）
⇒人口増⇒バス利用増

4. その他意見

- ・バスロータリーへの自家用車の乗り入れを禁止する
- ・幼稚園バスのようにぐるぐる回る地域バスを走らせる
- ・デイサービスのバスを昼間に走らせる
- ・シャトルバス方式で運行（電車に合わせて上まであがる）
⇒（ダイヤ以外の利用）予約制にする（雨天時・イベント時増便など、臨機応変な運行）
- ・バスダイヤに合わせた生活を考える（病院・美容院予約・自治会活動の開始時間）

- ・山下駅を経由してほしい
- ・バスを大きいバスにしてほしい
- ・バス停を増やしてほしい
- ・ダイヤ・コースの再検討
- ・高齢者にとってバス停の発車時刻が分かりにくい
- ・電車が着いたらバスが待っている状態だと乗りやすい
- ・38便に戻して乗客増をめざす時間が欲しい